

※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎増減が目立った大学

□反動による増減が多いが、入試方式の新設による増加が目立った

私立大 519 大学の一般選抜の志願者数集計において、志願者数の増加数、減少数がそれぞれ 3,000 人以上の大学について見ていきます。

増加した大学では、増加数が最も多かったのは千葉工業大の 6,054 人(104)、次いで明治大の 5,616 人(105)、龍谷大の 5,203 人(109)、関西学院大が 5,000 人(113)で、5,000 人以上の増加は 4 大学です。3,000 人以上の増加まで含めると 11 大学で、前年度最終の 13 大学から 2 大学減少しました。

千葉工業大は理・工系への高い人気加えて、2021 年度入試で導入したコロナ禍による厳しい経済環境への対策としての共通テスト利用方式の検定料減免を継続、さらに新規実施の<一般・S B 日程>の志願者数が約 6 千人に達したことで、大学全体の志願者数は 6 年連続増加、3 年連続増加数全国最多、4 年連続 10 万人を上回り、過去最多の 14 万人台になりました。明治大は前年度に引き続きやや増加で、志願者数は 2 年連続 10 万人を上回りました。龍谷大は全学部対象に 1 日の最大併願数が 4 併願から 6 併願まで可能になったことで増加し、志願者数は 6 万人を上回りました。関西学院大は前年度に一般方式の日程拡大や共通テスト利用方式で新規方式を実施するなど受験生目線で受験機会を増やし大幅増加しましたが、今年度は共通テスト利用方式の必須科目見直しの効果などもあって、さらに増加して志願者数は 5 年ぶりに 4 万人を上回りました。拓殖大(160)は共通テスト利用方式で、出願数に関わらず入学検定料を一律 10,000 円にしたことで、共通テスト利用方式が 5,419 人(350)の激増となったことが影響しました。東京電機大(117)は、後期で英語外部試験利用を新規実施したことで一般方式が 5,159 人(126)の大幅増加でした。上智大(118)は新規実施した<共テ利用(3 教科型)>の科目負担が軽いことで人気を集めた結果、志願者数は 5,000 人を上回り、この方式を含む共通テスト利用方式が 4,257 人(124)の大幅増加となりました。同志社大(109)は共通テストの難易変化への不安から難関国立大志願者から併願先として狙われ、2 年連続増加しました。立命館大(103)は 2 年連続増加しました。日本大(105)は大学を取り巻く厳しい環境が薄れたことに加えて、2 年連続減少の反動でやや増加しました。明治学院大(118)は前年度減少の反動が見られました。

減少した大学では、減少数が最も多かったのは東洋大の 11,182 人(89)、次いで法政大の 9,292 人(91)、東海大の 6,465 人(86)で、3,000 人以上の減少まで含めると 12 大学となり前年度最終の 11 大学から 1 大学増加しました。東洋大は前年度共通テスト利用方式で英語外部試験利用方式を導入し 30%以上大幅増加した反動で減少しました。法政大は前年度の共通テスト平均点大幅ダウンによる一般方式への駆け込み的な出願で大幅増加した反動から減少しました。立教大(93)は一般方式の文を除く学部で大学独自の英語出題がなく、民間の英語 4 技能資格・検定試験または共通テストの英語の受験が必須のため、私立大専願層を中心にこれを負担と感じる層が敬遠したことも影響し、一般方式が 5,504 人(86)の減少となりました。近畿大(97)、青山学院大(92)は前年度大幅増加の反動が見られました。東海大(86)、常葉大(73)は中堅レベルの受験生の年内入試シフトと共通テストの独特の出題形式への敬遠傾向により一般選抜の志願者数が減少しました。

なお、近年は入試日程や方式の追加、併願時の入学検定料の割引などで受験生の利便を図ることによって志願者数を増加させている大学がある一方で、逆に歩留まり率を正確に把握するために併願パターンの制限や入学検定料の割引の見直しを行う大学もあることから、単純に志願者数の延べ人数だけで、大学の人気を測れないことにも十分に留意してほしいと思います。

〔3,000 人以上増加した大学〕

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2023 年度	2022 年度	
千葉工業大	+6,054	104	145,128	139,074	大学全体では、6,054 人(104)のやや増加で 6 年連続増加となり、志願者数は初めて 14 万人を超えた。方式別では、一般方式は<SB 日程>の新規実施もあり 3,940 人(107)のやや増加。共通テスト利用方式は、6 年連続増加で 2,114 人(103)のやや増加。
明治大	+5,616	105	108,042	102,426	一般方式(105)、共通テスト利用方式(106)のいずれもやや増加。志願者数は 2 年連続 10 万人を上回った。学部別では、10 学部中 8 学部が増加で、特に経営(122)は大幅増加。共通テストの難易変化への不安から難関国公立大からの併願先として狙われたことも影響。
龍谷大	+5,203	109	61,083	55,880	1 日の最大併願数が 4 併願から 6 併願まで可能になったことも影響して大学全体(109)で増加、志願者数は 6 万人を上回った。一般方式(116)は大幅増加、共通テスト利用方式(98)は新規方式を実施したものの微減。
関西学院大	+5,000	113	43,737	38,737	大学全体(113)では増加で 3 年連続増加。志願者数は 5 年ぶりに 4 万人を上回った。一般方式(111)は増加、共通テスト利用方式(116)は必須科目見直しで大幅増加。いずれも 3 年連続増加。学部別では、14 学部中 11 学部で増加。
拓殖大	+4,954	160	13,145	8,191	共通テスト利用方式で、出願数に関わらず受験料を一律 1 万円にしたことで、共通テスト利用方式(350)は 3.5 倍増。一方で、一般方式(92)は減少で 5 年連続減少。
日本大	+4,736	105	98,506	93,770	大学全体(105)では大学を取り巻く厳しい環境が薄れたことに加えて、2 年連続減少の反動でやや増加。学部別では 17 学部中 11 学部で増加。理工(121)、国際関係(120)、芸術(119)は大幅増加。学科改組の生物資源科学(106)はやや増加。
東京電機大	+4,729	117	33,124	28,395	大学全体(117)では大幅増加で志願者数は 3 万人を上回った。一般方式(126)は、<後期・英語外部試験利用>を新規実施したことで大幅増加。共通テスト利用方式(95)はやや減少で 2 年連続減少。
同志社大	+4,118	109	49,972	45,854	大学全体(109)では増加で 2 年連続増加。学部別では、14 学部中 11 学部で増加。特に、文化情報(157)は 50%以上の大幅増加。共通テストの難易変化への不安から難関国公立大からの併願先として狙われたことも影響。
上智大	+4,049	118	26,552	22,503	一般方式(96)はやや減少で 5 年連続減少。新規実施の<共テ利用(3 教科型)>は科目負担が軽く人気を集めた結果、志願者数は 5,000 人を上回り、共通テスト利用方式(124)は大幅増加。
明治学院大	+3,574	118	23,203	19,629	一般方式(106)はやや増加、共通テスト利用方式(153)は 50%以上の大幅増加で 5 年ぶりの増加。学部別では、6 学部全ての学部で増加。特に、社会(155)、経済(126)は大幅増加。
立命館大	+3,047	103	91,382	88,335	大学全体(103)ではやや増加だが、志願者数は 3 年連続 10 万人を下回った。一般方式(101)は微増、共通テスト利用方式(107)はやや増加。学部別では、15 学部中 10 学部が増加。

〔3,000 人以上減少した大学〕

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2023 年度	2022 年度	
東洋大	-11,182	89	87,094	98,276	大学全体(89)では減少。一般方式(94)はやや減少、共通テスト利用方式(82)は前年度英語外部試験利用方式の導入で 30% 以上大幅増加の反動で大幅減少。
法政大	-9,292	91	99,051	108,343	前年度の共通テスト平均点大幅ダウンによる一般方式への駆け込み的な出願で大幅増加した反動から、大学全体(91)では減少。15 学部中、増加は社会(110)と文(102)の微増のみ。
東海大	-6,465	86	39,361	45,826	大学全体(86)では減少で、志願者数は 4 万人を下回った。一般方式(86)は減少で、医(141)、政治経済(105)、農(105)、文(102)以外の 19 学部は減少。共通テスト利用方式(85)は大幅減少で 4 年連続減少。
近畿大	-5,003	97	152,191	157,194	大学全体(97)ではやや減少だが、志願者数は 152,191 人で 10 年連続全国最多。文理別では、文系 6 学部合計(102)は微増、前年度情報の新設で大幅増加した反動で理系 9 学部合計(91)は減少。
立教大	-4,438	93	58,208	62,646	一般方式(86)は減少で、文を除き民間の英語 4 技能資格・検定試験または共通テストの英語の受験が必須のため、私立大専願層を中心にこれを負担増と感じた層の敬遠の影響もあった。共通テスト利用方式(105)はやや増加。
常葉大	-4,055	73	11,156	15,211	大学全体(73)では大幅減少で、3 年連続減少。一般方式(79)は大幅減少で、志願者数は 8 年ぶりに 1 万人を下回った。共通テスト利用方式(60)も大幅減少で、志願者数は 2,500 人を下回った。学部別では、10 学部全てが大幅減少。
青山学院大	-3,891	92	43,948	47,839	大学全体(92)では減少で、前年度大幅増加の反動。一般方式(89)は減少、共通テスト利用方式(95)は一部の学部で新規方式を実施したがやや減少。学部別では、11 学部中 8 学部が減少。
摂南大	-3,814	81	16,261	20,075	現代社会が新設されたが、大学全体(81)では大幅減少で 4 年連続減少。入試方式を整理したことが影響。その結果、一般方式(74)は大幅減少、共通テスト利用方式(100)は 4 人の微減。
中京大	-3,279	89	26,479	29,758	大学全体(89)では減少で、3 年連続減少。学部別では、10 学部中 6 学部が減少でそのうち 5 学部は大幅減少。特に、工(64)は 36% の大幅減少。
佛教大	-3,149	64	5,559	8,708	大学全体(64)では大幅減少で、7 学部中 6 学部が大幅減少。志願者数は 6 千人を下回り、1 万 3 千人を超えていた 2013 年度と比較するとほぼ 6 割減。
神戸学院大	-3,058	81	13,301	16,359	大学全体(81)では大幅減少で、4 年連続減少。学部別では、11 学部全ての学部が減少でそのうち 7 学部は大幅減少。専攻を新設した経営(91)も減少。
東京理科大	-3,054	94	50,698	53,752	大学全体(94)はやや減少。特に、学部名称変更の創域理工(79)は周知が進まず大幅減少。方式別では、一般方式(97)はやや減少だが、<グローバル方式>は大幅増加で 2 年連続増加。共通テスト利用方式(88)は減少。